

【熱性けいれんと風邪薬について】



院長 荒木敦

「熱性けいれん」とは、「主に生後6～60か月までの乳幼児に起こる通常は38℃以上の発熱に伴う発作性疾患」と定義されています。日本では、こどものおよそ10人に1人の割合で発症する非常によくある病気です。

熱性けいれんを起こしたこどものうち2回以上繰り返すのは30%程度と言われており、残りの70%は一生に1回しか起こしません。お父さんやお母さんがこどもの頃に熱性けいれんを起こしていたり、兄弟にも経験があると繰り返す率が高くなる場合があります。いずれにしても6歳を過ぎると自然に治っていく病気なので、熱のないけいれんなどがなければ心配はいりません。

熱性けいれんに限らず、けいれんを起こしたことがあるこどもに関して注意が必要なのが「抗ヒスタミン剤」です。「抗ヒスタミン剤」というのは、いわゆる「鼻水止め」としてや「じんましん」などのアレルギー疾患に対して処方される薬です。古いタイプの抗ヒスタミン剤を飲むと血液から脳の中に成分が入っていきやすく、けいれんが起りやすくなったり、けいれんが長引いたりすることが知られています。目安として、「眠くなる鼻水止め」はけいれんが起りやすいと覚えておいて下さい。

市販の風邪薬（シロップ剤も含む）には、大抵この古いタイプの抗ヒスタミン剤が入っています。「このお薬を飲ませると、よく眠ってくれるので都合がいい。」と思っているとしたら、それはけいれんを起こす可能性が高くなっているということです。最近では、脳の中に入っていくにくい新しいタイプの抗ヒスタミン剤も発売されていますので、病院で（特に耳鼻科で）お薬をもらう時には「この子はけいれんを起こしたことがあります。」と言って注意をしてもらいましょう。



当院には小児神経専門医が2名（私と診療部長）おり、その指導で全てのドクターがけいれんについての十分な知識を持っています。何か心配なことがあれば、いつでも気軽に相談して下さい。





明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



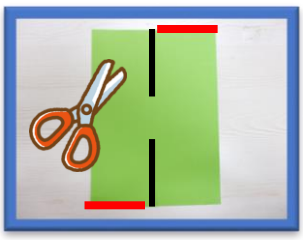
伝承遊び紹介

日本で古くから親しまれている遊びの事を「伝承遊び」といいます。例えば普通の遊びでよく取り入れられている鬼ごっこや折り紙、手遊びなどです。お正月の遊びとしては、駒や福笑いも伝承遊びと言われています。今回は、おすすめの伝承遊びをご紹介します。ぜひ遊んでみてくださいね。

～くるくるたこ～

〈準備する物〉

- ・画用紙（B5サイズ）
- ・たこ糸
- ・セロハンテープ
- ・棒（新聞紙などの紙で丸めます。）



①長方形（B5サイズ）の画用紙にハサミで2カ所切り込みをいれます。



③テープで貼り付けた所にたこ糸と棒を付けると完成♪
タコ糸は画用紙の中心に貼るとよく回りますよ☆



②端と端を持ち、紙を丸めテープで貼り付けます。



〈遊びのポイント〉
左右に大きく動かすと良く回ります。周りのお友達に当たらないように広いところで遊んでくださいね。



～ご案内～

- 登録受付時間
〈月曜日～金曜日〉 10:00～11:00
12:30～15:00
〈土曜日〉 10:00～12:00
- 予約受付時間
〈ネット〉 前日8:00～当日7:00
〈電話〉 13:00～16:00まで
(月曜日～金曜日)
〈当日〉 7:30～電話にて空き状況を確認
※事前登録が必要です
- 入室の際は入口右側のインターホンを押してください。

病児・病児後施設合同登録会

- 日時 : 2022年 2月26日 (土曜日)
- 場所 : 大阪旭こども病院新館1階
予防接種外来
- 参加施設 : 病後児保育室ケアルーム菜すな (鶴見区)
すみれこどもケアルーム病児保育室 (城東区)
病後児ルームひまわり (都島区)
大阪旭こども病院アリス病児保育室 (旭区)
- ※事前予約が必要となります。**

詳細はアリス病児保育室のホームページをご覧ください。

